

夢をよく育てる

洛陽外国語学校 高1 曾 珏

小さい時、よくテレビでいろいろな発明の放送を見ることがありました。特にロボットの発明に興味を持っていました。ロボットは鋼鉄で作った物なのに、人間のように動くことができ、なんてすごいんだろうと思いました。自分もロボットなどのような物を作れたらと思いました。ですから、その時から、発明家になりたいという夢を持っています。

それから、小学校に入りました。その時から、発明や科学についていろいろな知識を学び始めました。三年生の時、労働課がありました。その時間にみんな自分の手で、自分が好きなように、いろいろな物を作って、とても楽しかったです。そして、私は初めて自分の作品を作り上げました。ごく普通の模型飛行機ですが、その時の私にとってはうれしくてなりません。その模型飛行機は、私が自分一人でいろいろな本を調べて、やっとできたからです。その時、もっと発明家になりたい気持ちが強くなって、その夢を実現するために頑張ろうと決心しました。

その後、中学校に入りました。その時の私はもう科学や技術について、以前よりよく知っていますから、二年生から物を作り始めてみました。最初は「自動にインクを吸うことができる万年筆」という物を作りました。友達はそのを使ってみて、とてもいいと言ってくれました。私はとてもうれしくなりました。こうして、私はもっと自信を持って、集中して丹念に物を作るようになりました。

三年生の時、こんなことがありました。ある日、テレビでとてもおもしろい発明を見ました。その時、すぐそれに興味が湧いてきました。それで、一日中ずっと家にいて、その発明のし方を研究しています。でも、いくら作ってもテレビで見たのと同じ物を作り出すことができませんでした。どうしたらいいのでしょうか。もし図書館へ行ったら、何か新しい発見があるかもしれないと思って、すぐに図書館へ行きました。でも、そんなに簡単ではありません。たくさん本を調べましたが、その発明について何も探し当たりませんでした。私はとてもがっかりしました。家に帰ってから、そのことを両親に話しました。彼らは「あきらめないで。先生に聞いてみたら。」と励ましてくれて、私はすぐ元気になりました。翌日、私は両親の言ったとおりに先生に聞きました。最後に、クラスメートたちの協力、また先生の指導で、やっと成功しました。作り上がったものはテレビで見たのと同じで、とてもうれしかったです。

それから、私は便利ないすや、自分で立つことができる本などの発明をたくさんしました。友達と先生にほめられて、まるで自分が世界で一番すごい発明家のように感じました。

中学の三年を通して、いろいろなことを勉強しました。またたくさん大切な経験を得ました。それらはいい勉強になり、夢の岸につながる橋かもしれません。

今、私は高校生になりました。毎日勉強で忙しいですが、なんとか合い間を見て物を作っています。そのため、夜遅くまで起きていることもよくあります。土曜日や日曜日にも休むことができないことが多く、「あきらめたほうがいいよ。」とよく友達に言われます。でも、私はそう思いません。エジソンは一生懸命努力して、やっと偉い発明家になったのではないのでしょうか。ですから、将来いろいろな困難に遭うかもしれません。でも、どんなにひどい困難に遭っても、苦しくても、つらくても、私は決してあきらめません。それは私の夢だからです。

これからも自分の夢のためによく頑張ります。将来発明家になることができないかもしれません。将来一番いい発明をすることができないかもしれません。でも、私は自分の夢をよく育てたら、きっと一番美しい花が咲くだろうと思っています。